

全国財務局

管内経済情勢報告概要

令和4年11月1日

財 務 省

# 目 次

## I 地域経済の概況

地域経済の概況 .....	2
全財務局管内経済情勢報告 .....	3
（参考）財務局及び財務事務所において判断した各地域の経済情勢.....	4

## II 各財務局からの報告

北 海 道 財 務 局 .....	7
東 北 財 務 局 .....	11
関 東 財 務 局 .....	15
北 陸 財 務 局 .....	19
東 海 財 務 局 .....	23
近 畿 財 務 局 .....	27
中 国 財 務 局 .....	31
四 国 財 務 局 .....	35
九 州 財 務 局 .....	39
福 岡 財 務 支 局 .....	43
沖 縄 総 合 事 務 局 .....	47

# I 地域経済の概況

## 地域経済の概況

### ○令和4年7月判断と比べた4年10月判断の地域経済の動向

「総括判断」は、1地域で「上方修正」、10地域で「据え置き」。

### ○令和4年10月判断の全局総括判断

「供給面での制約や原材料価格高騰の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直している」

### 【財務局等の管轄区域】

財務局等	指標中略称	管轄都道府県	本局所在地
北海道財務局	北海道	北海道	札幌市
東北財務局	東北	宮城県、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県	仙台市
関東財務局	関東	埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県	さいたま市
北陸財務局	北陸	石川県、富山県、福井県	金沢市
東海財務局	東海	愛知県、岐阜県、静岡県、三重県	名古屋市
近畿財務局	近畿	大阪府、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県	大阪市
中国財務局	中国	広島県、鳥取県、島根県、岡山県、山口県	広島市
四国財務局	四国	香川県、徳島県、愛媛県、高知県	高松市
九州財務局	九州	熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県	熊本市
福岡財務支局	福岡	福岡県、佐賀県、長崎県	福岡市
沖縄総合事務局財務部	沖縄	沖縄県	那覇市

全財務局 管内経済情勢報告

	前回（４年７月判断）	今回（４年１０月判断）	前回との 基調比較	全局総括判断の要点
全局総括	供給面での制約や原材料価格高騰の影響が引き続きみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	供給面での制約や原材料価格高騰の影響が引き続きみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、物価高に伴う実質購買力の低下懸念はあるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
財務局名	前回（４年７月判断）	今回（４年１０月判断）	前回との 基調比較	各財務局の総括判断の要点
北海道	<u>緩やかに持ち直しつつある</u>	<u>緩やかに持ち直しつつある</u>	→	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
東北	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが5G基地局向けなどで好調となっているほか、生産用機械が海外の設備投資需要を背景に高水準となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
関東	供給面での制約の影響がみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	供給面での制約の影響がみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、家電販売額、ホームセンター販売額が前年を下回っている一方で、百貨店販売額、スーパー販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、生産用機械、輸送機械などが増加しており、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
北陸	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が持ち直しつつあることなどから、全体では持ち直しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスが持ち直しに向けた動きに一服感がみられるものの、化学が持ち直していることや生産用機械が拡大しつつあることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
東海	<u>緩やかに回復している</u>	<u>緩やかに回復している</u>	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
近畿	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、足下では感染が落ち着き、外出機会の増加に伴い、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響が緩和され、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
中国	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直している。
四国	<u>持ち直しつつある</u>	<u>持ち直しつつある</u>	→	個人消費は、家電大型専門店、ホームセンターが弱含んでいるものの、スーパーに底堅さがみられ、コンビニエンスストア、観光等が緩やかに持ち直していることから、全体としては持ち直しつつある。生産活動は、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直している中、食品で持ち直しに向けた動きが緩やかになっているほか、パルプ・紙で持ち直しに向けた動きに一服感がみられることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
九州	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費でも持ち直しの動きが続いていることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械が高水準で推移していることから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
福岡	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
沖縄	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、 <u>持ち直しつつある</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	↔	個人消費は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア販売が、外出機会の増加に伴う動きがみられるほか、観光地周辺店舗が好調なことなどから、持ち直しつつある。観光は、旅行需要の高まりから、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

(注) ※ 4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。  
 ※ 下線部が基調判断。

(参考) 財務局及び財務事務所において判断した各地域の経済情勢

	総括判断(4年10月判断)	前回との比較	総括判断の要点
北海道財務局	緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
東北財務局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが5G基地局向けなどで好調となっているほか、生産用機械が海外の設備投資需要を背景に高水準となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
宮城	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	↔	個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
岩手	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田	緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
山形	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直している。
福島	持ち直しつつある	↔	個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
関東財務局	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、家電販売額、ホームセンター販売額が前年を下回っている一方で、百貨店販売額、スーパー販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、生産用機械、輸送機械などが増加しており、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
埼玉	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
茨城	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動及び雇用情勢は持ち直している。
栃木	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
群馬	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられる中、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直しつつある。
千葉	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
東京	緩やかに持ち直している	➡	個人消費及び産業活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、改善しつつある。
神奈川	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している	↔	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
新潟	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善しつつある。
山梨	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
長野	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、改善しつつある。
北陸財務局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が持ち直しつつあることなどから、全体では持ち直しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスが持ち直しに向けた動きに一服感がみられるものの、化学が持ち直していることや生産用機械が拡大しつつあることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
石川	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
福井	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は持ち直しの動きに一服感がみられる。また、雇用情勢は、持ち直している。
東海財務局	緩やかに回復している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
愛知	緩やかに回復している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
岐阜	持ち直している	↔	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡	緩やかに回復しつつある	↔	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
三重	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、海外需要の動向により一部で調整する動きがあることなどから、全体ではおおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、改善に向けた動きが続いている。

(注) 4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。

	総括判断（4年10月判断）	前回の比較	総括判断の要点
近畿財務局	持ち直している	➡	個人消費は、足下では感染が落ち着き、外出機会の増加に伴い、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響が緩和され、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➤ 大阪	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 滋賀	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 京都	持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 兵庫	持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 奈良	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 和歌山	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。

中国財務局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直している。
➤ 広島	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
➤ 鳥取	持ち直しつつある	➡	個人消費、生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
➤ 島根	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直している。
➤ 岡山	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 山口	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

四国財務局	持ち直しつつある	➡	個人消費は、家電大型専門店、ホームセンターが弱含んでいるものの、スーパーに底堅さがみられ、コンビニエンスストア、観光等が緩やかに持ち直していることから、全体としては持ち直しつつある。生産活動は、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直している中、食料品で持ち直しに向けたテンポが緩やかになっているほか、パルプ・紙で持ち直しに向けた動きに一服感がみられることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 香川	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 徳島	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 愛媛	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 高知	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

九州財務局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費でも持ち直しの動きが続いていることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械が高水準で推移していることから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
➤ 熊本	持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費でも持ち直しの動きが続いていることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械が高水準で推移していることから、回復している。雇用情勢は、持ち直している。
➤ 大分	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、外出機会が増え、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光関連などにおいて客数が増加するなど、緩やかに持ち直している。生産活動は、輸送機械において供給制約の影響が和らぐなど、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 宮崎	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、外出機会の増加に伴い百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足に裏がみられることから緩やかに持ち直している。生産活動は、その他工業などに弱さがみられるものの、食料品工業などを中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業を含む幅広い業種において緩やかに持ち直している。
➤ 鹿児島	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光関連において引き続き回復基調にあることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、食料品工業などに弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。

福岡財務支局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➤ 福岡	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➤ 佐賀	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、一部に供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
➤ 長崎	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

沖縄総合事務局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア販売が、外出機会の増加に伴う動きがみられるほか、観光地周辺店舗が好調なことなどから、持ち直しつつある。観光は、旅行需要の高まりから、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
---------	-------------	---	---

(注)4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。

## Ⅱ 各財務局からの報告

# 北海道財務局

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	緩やかに持ち直しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
観光	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
企業の景況感	「上昇」超となっている	「上昇」超となっている	→
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	→
公共事業	前年を下回る	前年を下回る	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

スーパー販売は、肉食需要の低下や家計の節約志向の高まりの影響がみられるものの、商品単価の上昇により、前年並みとなっている。コンビニエンスストア販売は、観光地等の店舗が回復傾向にあるなど、緩やかに持ち直している。乗用車販売は、受注状況は好調であるものの、供給面の制約により足踏みの状況にある。ドラッグストア販売は、医薬品が回復傾向にあるなど、前年を上回っている。家電販売は、足下で、これまで生じていた品薄状態が解消されつつあり、持ち直しの動きがみられる。百貨店販売は、衣料品に動きがみられるなど、持ち直しつつある。ホームセンター販売は、DIY用品にみられた巣ごもり需要が落ち着いていることから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

このように、個人消費は全体として、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 値上げを背景に買上点数が減少しており、「必要なものしか買わない」といった消費者の節約志向や、購入品によって店を使い分ける行動が顕著になっている。(スーパー)
- コロナ禍で不調であった観光地やオフィス街に立地する店舗が回復しており、特に札幌中心部については、各種イベントの開催もあり、好調である。(コンビニエンスストア)
- 通常時は車検の3か月前に買い替えを勧めるが、現在は納期が長期化していることもあり、車検の1年以上前から声掛けしていかないと間に合わない状況である。(乗用車販売店)
- エネルギー価格の上昇に伴う家計の節約志向により、来店頻度の減少などの影響がみられるものの、医薬品が全体を押し上げている。(ドラッグストア)
- 半導体の供給不足から、ドラム式洗濯機などの人気商品で深刻な品不足が続いていたが、9月半ば以降、供給不足は解消してきており、足下では売上が改善している。(家電量販店)
- 感染が拡大した期間においても、特に落ち込むことなく、観光客の姿が多くみられたほか、旅行関連や結婚式などオケージョンに関連する商品の回復傾向が続いている。(百貨店)
- 今夏の感染拡大に関しては、一定数外食を控える顧客がいたと思われるものの、制約がまばなかつたこともあり、過去の感染拡大期ほど売上が落ち込むことはなかった。(飲食サービス業)

### ■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

生産活動は、「鉄鋼業」などが増加しているものの、「金属製品」や「食料品」などが減少しており、全体では足踏みの状況にある。

- 当期の生産動向については、札幌市内の中規模マンション及び風力発電関連向けが動き出しており、特に、風力発電は道北を中心にかなりの受注件数がある。先行きは、新幹線や再開発事業等の案件に期待している。(鉄鋼業)
- 当期の生産は、前年度からの大型案件である再開発事業が動いているが、発電向けなどその他の動きが鈍い。受注状況が良くないため、他社受注の下請けも行っており、利幅は低い状況にある。(金属製品)
- サケ・マスの仕入価格が高騰し、販売価格に転嫁したところ、販売数量、生産量ともに前年を下回った。(食料品)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は上昇しており、雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- 新規求人数は、ほとんどの業種で増加した。医療、福祉関係が継続的に増加しているほか、宿泊、飲食サービス業では夏の繁忙期と今後の需要回復を見据え、求人が増加した。(公的機関)
- 月間有効求職者数は、コロナ禍前と比較すると高止まりしている。特に、感染症が落ち着いた時期には、求職活動を再開する動きがみられた。(公的機関)
- 観光需要の回復が想定していた以上であったことから、受け入れ態勢が整いきっておらず、特に従業員不足が深刻である。清掃やフロントで対応できない分については予約制限をかけている。(宿泊業)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 受注が増加しているところ、処理能力を高めるため、現施設の増築を計画している。ただし、供給制約の影響により今年度中の完成が困難となり、一部の計上を翌期に繰り延べている。(食料品)
- 生産能力増強のため製造ラインを増設するほか、これまでは人が目視で行っていたラインの監視をカメラによる自動確認に変更するソフトウェア投資を予定している。(輸送用機械器具)

■ **観光** 「感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

- 観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、来道客数は前年を上回っており、緩やかに持ち直しつつある。

- 感染者数の急激な増加により、新規予約の鈍化や、キャンセルも見受けられたものの、感染状況を見極めて直前に予約する人が多く、結果的には利用者数が大きく減少することはなかった。特に、お盆期間は盛り上がりを見せ、国内客のみをみると、利用者数はコロナ禍前と同等まで回復した。(宿泊業)
- 新千歳空港の国際定期便の再開後、さらに問い合わせは増えており、いままでほとんどいなかった海外客が少しずつ動き出している。(宿泊業)
- 10月以降は修学旅行のシーズンであるため、団体客の予約が多く入っているほか、全国旅行支援が開始するため期待感がある。(運輸業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「食料品」などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字拡大となっていることなどから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「「上昇」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(4年7-9月期)でみると、企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超となっている。

なお、先行きは、4年10-12月期に「下降」超へ転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、貸家、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家は前年を下回っており、弱含んでいる。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額でみると、第2四半期は、独立行政法人等、北海道が前年を上回っているものの、国、市町村が前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

■ **金融** 「貸出金残高は前年を上回る」

■ **企業倒産** 「件数は前年を上回る」

■ **消費者物価** 「前年を上回る」

# 東北財務局

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが5G基地局向けなどで好調となっているほか、生産用機械が海外の設備投資需要を背景に高水準となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
生産活動	持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超幅が縮小	「下降」超幅が拡大	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、物価上昇による家計や企業への影響、供給面での制約、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年並みとなっている。百貨店販売は身の回り品等が好調となっており、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は米飯・麺類やカウンター商品などが好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は新規出店効果のほか、医薬品や飲食料品が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売は天候不順により季節商品等が伸び悩んだことから、前年を下回っている。家電販売はエアコン等が低調となっていることから、前年を下回っている。乗用車販売は半導体不足等の影響による納車の遅れが続いているものの、前年を上回っている。旅行は国内旅行が持ち直しつつある。このように、個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加により婦人服などの衣料品が好調となった。行動制限がなかったため夏休みやお盆の帰省客が増加しお土産も好調だった。(百貨店)
- 一度の購買点数を落とし必要なものを必要な分だけ買う姿勢がみられるほか、メーカー品よりも価格の安いPB商品へのシフトがみられる。(スーパー、中小企業)
- 外出機会の増加に夏のイベント効果も加わって、人流が戻ってきており、おにぎりやカウンター商品が好調。(コンビニエンスストア、大企業)
- 感染者数の増加により抗原検査キット・解熱鎮痛剤が好調となったほか、飲食料品では単価の安い商品が選好されている。(ドラッグストア、中小企業)
- エアコンは8月に天候不順の影響で低調となっているほか、テレビは昨年のオリンピック需要により反動減となった。(家電量販店、大企業)
- 車種によりばらつきはあるものの納期の長期化は継続している。受注については、新型車投入効果もあって前年を上回るなど堅調。(自動車販売、中小企業)
- 第7波の影響がみられたものの、「世間的に旅行に行ってもよい」という雰囲気醸成されてきており、消費者のマインドは改善している。(旅行代理店、中堅企業)
- 行動制限がなくイベントや大会が開催されたほか、県民割が実施されたことにより、前年と比較して宿泊客数が大幅に増加しており、売上げも前年超えとなっている。(宿泊、中小企業)

### ■ 生産活動 「持ち直している」

電子部品・デバイスはスマートフォン向けなどで一部に落ち着きがみられるものの、5G基地局向けなどで好調となっている。輸送機械は供給制約に一部で緩和の動きがみられ、持ち直しつつある。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける設備投資需要を背景に高水準となっている。このように、生産活動は、持ち直している。

- 中国経済の悪化に伴い中国向けのスマートフォン部品が減産となっている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 5G通信基地局向けが堅調に推移。特に欧州、中国での需要は高く受注量が増加している。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 上海のロックダウンによる部品不足が解消したほか、半導体不足も緩和しており、7月以降緩やかな回復傾向にある。(輸送機械、大企業)
- 海外半導体メーカーが大規模な設備投資を実施しているため、高操業が続いている。(生産用機械、大企業)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

新規求人数が宿泊業・飲食サービス業を中心に増加し、有効求人倍率も上昇している。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 宿泊業・飲食サービス業では、行動制限のない夏において県民割効果により宿泊者数が回復したことに加えて、全国旅行支援への期待感から、旅館等を中心に求人数が大幅に増加した。(公的機関)
- 足下では物価上昇で家計を心配した主婦やシニアが求職活動を行う動きがみられる。(公的機関)

- **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
    - 製造業では、金属等で減少見込みとなっているものの、情報通信機械、輸送用機械等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
    - 非製造業では、情報通信等で増加見込みとなっているものの、電気・ガス・水道、鉱業・採石・砂利採取等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。
- 新規事業のための投資や製造ライン増設等の能力増強投資により増加する見込みとなっている。(情報通信機械、大企業)
  - 前年度までの大型投資の反動により減少する見込みとなっている。(電気・ガス・水道、大企業)
- **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
    - 製造業では、輸送用機械等で増益見込みとなっているものの、食料品、電気機械等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
    - 非製造業では、情報通信等で減益見込みとなっているものの、宿泊・飲食で黒字転化見込み、運輸・郵便で赤字幅縮小見込みとなっていることなどから、全体では増益見込みとなっている。
  - **企業の景況感** 「『下降』超幅が拡大」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
    - 現状(4年7-9月期)は「下降」超幅が拡大している。先行きは、4年10-12月期に「上昇」超に転じ、5年1-3月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。
  - **住宅建設** 「前年を下回っている」
    - 新設住宅着工戸数をみると、貸家、分譲が前年を上回っているものの、持家が前年を下回っていることから、前年を下回っている。
  - **公共事業** 「前年度を下回っている」
    - 前払金保証請負金額は、県、その他で前年度を下回っている。
  - **消費者物価** 「前年を上回っている」
  - **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
  - **企業倒産** 「件数は前年を上回っており、負債総額は前年を下回っている」

### 3. 各県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	↗	個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→	個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
山形県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直している。
福島県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	↗	個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。

# 関東財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、家電販売額、ホームセンター販売額が前年を下回っている一方で、百貨店販売額、スーパー販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、生産用機械、輸送機械などが増加しており、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	緩やかに持ち直している	↗
雇用情勢	持ち直している	緩やかに改善しつつある	↗

設備投資	4年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	4年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	→
企業収益	4年度は減益見込みとなっている（全規模ベース）	4年度は減益見込みとなっている（全規模ベース）	→
企業の景況感	「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）	「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
公共事業	前年を下回っている	前年を下回っている	→
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額などは前年を上回っている。家電販売額、ホームセンター販売額は前年を下回っている。乗用車の新車登録届出台数は、小型車が前年を下回っているものの、普通車、軽乗用車は前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

宿泊や飲食サービスなどは、持ち直している。

このように個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 天候要因等により来店客数はやや減少したものの、富裕層の消費が継続しているほか、高付加価値商材の牽引により客単価は上昇しており、業績は好調。(百貨店、大企業)
- 物価高に伴う販売数量の落ち込みはみられるものの、総菜類の販売が好調だったほか、アイスクリームなどの季節食品の販売が伸びたことから売上高は増加している。(スーパー、中堅企業)
- 行動制限の緩和に伴い、おにぎり、ソフトドリンク、カウンターフードなどの行楽関係の需要が増加したことから、売上高、客数が増加するとともに、客単価が上昇している。(コンビニエンスストア、中堅企業)
- 新型コロナウイルス対策商品の需要が一巡したほか、供給制約によりプライベートブランド商品が品薄になった影響もあり、売上高、客数が前年を下回っている。(ホームセンター、大企業)
- 販売台数は12か月連続で前年同月を下回って推移していたが、ここにきて横ばいになっており、回復の兆しが見える。(自動車販売、中小企業)
- 国内旅行は、第7波の影響により一定のキャンセルが発生したものの、県民割や行動制限緩和により前年比約3倍の売上げとなっている。(旅行、大企業)
- 宿泊部門は、第7波の感染拡大があったものの、行動制限がなかったことから好調に推移したほか、宴会や会議の需要も少しずつ戻ってきている。(宿泊、中小企業)
- 新型コロナウイルス感染者数の急増に伴い客数が前年を下回ったものの、テイクアウトの定着や客単価の上昇により売上高は増加している。(飲食サービス、大企業)

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

生産を業種別にみると、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、生産用機械、輸送機械、電気機械などが増加しており、緩やかに持ち直している。

- 半導体製造装置は、旺盛な需要により今期の受注額が過去最高となったほか、フル生産が続いており、生産量は増加している。(生産用機械、大企業)
- 依然として半導体不足が継続しているものの、その状況が改善してきていることに加え、中国ロックダウンによる減産影響が解消されたこともあり生産量は増加している。(輸送機械、大企業)
- 上海ロックダウンの解除により部材不足が解消されたことから、4-6月の生産減少分の挽回生産を行っており、主力家電製品の生産量は増加している。(電気機械、大企業)

なお、非製造業では、リース業の取扱高及び広告業の売上高は前年を下回り、情報サービス業の売上高は前年を上回っている。

### ■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は上昇し、新規求人数は増加しているほか、完全失業率は改善しており、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 受注が好調な中、生産に必要な人員が十分に確保できていない。人材派遣を活用しているが必要な人材が集まらず、特に専門人材の確保が困難となっている。(製造業、中小企業)
- コロナ感染拡大時に大量に離職した店舗アルバイトの補充ができていない。(飲食サービス、中小企業)

### ■ 設備投資 「4年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、食料品などで減少見込みとなっているものの、化学、自動車・同附属品などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信業などで減少見込みとなっているものの、金融業、保険業、不動産業などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 需要が旺盛なディスプレイ用液晶フィルムの生産能力増強のため増加見込み。(化学、大企業)
- 新型コロナの影響により先送りとなっていた案件が再開されたため、増加見込み。(不動産、大企業)

### ■ 企業収益 「4年度は減益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、情報通信機械などで増益見込みとなっているものの、非鉄金属などで減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

○ 非製造業では、運輸業、郵便業などで増益見込みとなっているものの、学術研究、専門・技術サービス業などで減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

○ 大企業は「上昇」超に転じ、中堅企業は「下降」超幅が拡大し、中小企業は「下降」超幅が縮小している。先行きについては、全規模・全産業ベースで10~12月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回っている」

○ 新設住宅着工戸数をみると、持家は前年を下回っているものの、貸家、分譲住宅は前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

- 1棟当たりの販売価格が上昇する中、コロナの影響の継続から住宅展示場の来客数は減少しており、注文住宅の受注は前年を下回っている。(住宅建設、大企業)
- 分譲マンションは、価格が高騰しているものの、パワーカップルを中心に購入意欲が強く、利便性の高い都心や駅近物件のほか、主要沿線上の郊外も人気となっており、販売は好調となっている。(不動産、大企業)

■ **公共事業** 「前年を下回っている」

○ 前払金保証請負金額をみると、独立行政法人等、都県、市区町村は前年を上回っているものの、国が前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

■ **輸出** 「前年を上回っている」

○ 通関実績(円ベース、東京税関と横浜税関の合計額)でみると、輸出は前年を上回っている。なお、輸入も前年を上回っている。

■ **倒産** 「件数、負債総額ともに前年を上回っている」

3. 各都県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
埼玉県	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
茨城県	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動及び雇用情勢は持ち直している。
栃木県	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
群馬県	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられる中、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直しつつある。
千葉県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
東京都	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費及び産業活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、改善しつつある。
神奈川県	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
新潟県	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善しつつある。
山梨県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
長野県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、改善しつつある。

# 北陸財務局

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が持ち直しつつあることなどから、全体では持ち直しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスが持ち直しに向けた動きに一服感がみられるものの、化学が持ち直していることや生産用機械が拡大しつつあることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
生産活動	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	4年度は増加見込みとなっている	4年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	4年度は増益見込みとなっている	→
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	↘

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では衣料品や高額品に動きがみられることから、前年を上回っている。スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、前年を上回っている。以上のような状況を踏まえると、持ち直しつつある。コンビニエンスストア販売は、米飯類や飲料に動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられることに加え、新規出店効果がみられることなどから、順調となっている。ホームセンター販売は、DIY用品の動きが鈍いことから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、テレビの動きが鈍いことなどから、横ばいの状況にある。新車販売台数は、普通乗用車、軽乗用車は低水準にあった前年を上回っているものの、小型乗用車は前年を下回っており、弱含んでいる。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を上回っている。旅行取扱実績は、海外旅行は厳しい状況にあるものの、国内旅行は各種政策の効果により動きがみられる。以上のことから、個人消費については、持ち直しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- お盆は帰省客や観光客で非常に賑わったほか、8月以降の催事にも多くの来場があり、盛況だった。(百貨店)
- 外出機会の増加もあり、巣ごもり需要がやや落ち着いているものの、依然として飲食料品の売れ行きが良い。(スーパー、中堅企業)
- 人流の回復に伴い客数が増加しており、おにぎりなど米飯類や飲料の売れ行きが良い。(コンビニエンスストア、大企業)
- 引き続き飲食料品の売れ行きが良いほか、紙類の値上げを見込んで、トイレットペーパー等のまとめ買いがみられた。(ドラッグストア、中堅企業)
- 資材高の影響や、巣ごもり需要の落ち着きにより、DIY用品の売れ行きが鈍い。(ホームセンター、大企業)
- 巣ごもり需要の落ち着きなどにより、テレビ等の動きが鈍い。(家電大型専門店、中小企業)
- 自動車減産により、引き続き納車までの期間が長期化しているほか、納期が見通せない車種もある。また、受注は順調に推移しているものの、納期の不透明さから、購入を見送る動きもある。(自動車販売店、中小企業)
- 県民割が実施されていたことから、近隣県からの宿泊客が多かった。足下では、全国旅行支援によって遠方からの宿泊客の増加が期待される。(温泉地)
- 行動制限がない中、特に休日の客数が増加してきている。(飲食サービス、大企業)

### ■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。化学は、大宗を占める医薬品で、持ち直している。生産用機械は、半導体製造装置が拡大しているほか、金属加工機械、繊維機械が増加していることなどから、全体では拡大しつつある。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、ビル用が持ち直しつつあるものの、住宅用が足踏みの状況にあることから、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。繊維は、衣料向け、非衣料向けともに足踏みの状況にある。以上のことから、生産活動については、緩やかに回復しつつある。

- スマートフォン向けについて、中国メーカー向けが、中国市場の冷え込みやセットメーカーの生産調整等の影響により、生産水準を落としている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 引き続き、全国的な医療用医薬品の不足を背景に受注が増加しており、後発医薬品の生産が追い付いていない状況となっている。(化学、大企業)
- 国内外の設備投資意欲の高まりを受け需要は旺盛で受注残を1年分抱えており、フル生産が続いている。(生産用機械、中小企業)
- ビル用については動きがみられるものの、住宅用建材については持家の着工戸数が減少していることから、足踏みの状況にある。(金属製品、大企業)
- 衣料用においては、ファッション関連が未だに厳しい状況が続いている一方で、ゴルフやヨガ人気により、スポーツ関連は順調に推移している。(繊維、大企業)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は上昇している。新規求人数は前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。以上のことなどから、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 機械設計やプログラム回路設計ができる技術系の人材が採用できていないなど、不足感が強い。(生産用機械、大企業)
- 後発医薬品の生産拡大に向けた人員確保のため、賃上げの検討や派遣会社の活用を拡大している。(化学、大企業)
- 小売以外の業種も含めて人材の取り合いになっており、不足分は既存の人員での穴埋めを余儀なくされている。(小売、中堅企業)
- 宿泊・飲食サービスでは、感染症の影響が薄れたことによる人流の回復を背景に、求人が増加している。(労働局)
- 派遣需要の高まりによって、以前よりも派遣単価の引き上げ交渉を行いやすくなった。(職業紹介・労働者派遣業、中小企業)

- **設備投資** 「4年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
    - 製造業では、生産用機械器具などが減少となるものの、情報通信機械器具、化学工業などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
    - 非製造業では、宿泊・飲食サービスなどが減少となるものの、金融・保険、建設などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
- 生産設備の拡充などにより、増加見込み。(情報通信機械器具、大企業)
  - システム更新や店舗の修繕などにより、増加見込み。(金融・保険、大企業)
  - 前年度に実施した大型投資の反動などにより、減少見込み。(生産用機械器具、大企業)
- **企業収益** 「4年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
    - 製造業では、金属製品などが減益となるものの、化学工業、自動車・同附属品などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
    - 非製造業では、情報通信などが減益となるものの、学術研究・専門・技術サービス、運輸・郵便などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
  - **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
    - 企業の景況判断BSIは、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。なお、先行きは、全産業では4年10-12月期は「上昇」超となる見通しとなっているものの、5年1-3月期は「下降」超となる見通しとなっている。
  - **住宅建設** 「持ち直しに向けた動きに一服感がみられる」
    - 新設住宅着工戸数でみると、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。
  - **公共事業** 「前年を上回っている」
    - 前払金保証請負金額でみると、前年を上回っている。
  - **金融機関の貸出金** 「前年を上回っている」
    - 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。
  - **企業倒産** 「前年を上回っている」
    - 件数、負債総額ともに前年を上回っている。
  - **消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合)** 「前年を上回っている」
    - 消費者物価指数でみると、前年を上回っている。

### 3. 各県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
福井県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は持ち直しの動きに一服感がみられる。また、雇用情勢は、持ち直している。

# 東海財務局

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる	供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに改善しつつある	↗

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	おおむね横ばいとなっている	弱含んでいる	↘
公共事業	前年並みとなっている	前年を下回っている	↘
輸出	緩やかに増加している	緩やかに増加している	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに回復していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は、横ばいとなっている。コンビニエンスストア販売は、緩やかに持ち直している。ドラッグストア販売は、増加している。百貨店販売は、緩やかに回復している。家電大型専門店販売は、弱い動きとなっている。ホームセンター販売は、弱い動きとなっている。乗用車販売は、供給面の影響により、弱含んでいる。旅行取扱高は、国内向けを中心に、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物価上昇の影響により、お値打ち商品へ需要がシフトするなど節約志向が見られるものの、買上点数もそこまで変わっておらず、消費者の購買力はそこまで落ち込んでいないとは感じない。(スーパー、大企業)
- 気温上昇や外出増加に伴い、化粧品や飲食料品等の売れ行きが好調。調剤(処方箋)も引き続き伸びており、コロナ第7波の影響で鎮痛剤や除菌商材等衛生用品の売れ行きが好調であった。(ドラッグストア、大企業)
- 今年は行動制限がなくお盆時期の帰省があったため、手土産としての菓子が好調であったほか、特選衣料・高額品が引き続き好調で、加えて値上げ前の駆け込み需要も見られる。(百貨店、大企業)
- 受注は堅調に推移しているが、納期の遅れは日々大きくなっており、いまだにピークとなっている実感はなく、影響はしばらく続きそうな見込みである。(乗用車、中小企業)
- コロナ第7波により売上が前年比で大きく縮小したものの、感染拡大に落ち着きが見られてからは増加幅が拡大しており、国内旅行先は県外比率が日を追うごとに高まっている。海外はほとんど取り扱いがない。(旅行、中小企業)
- コロナ第7波があったものの、行動制限がなかったため、客足は好調。宴会需要なども増えてきている。今後は人流の増加により、さらに来店客数が伸びることに期待している。(飲食サービス、大企業)

### ■ 生産活動 「供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる」

自動車関連は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる。航空機部品は、海外航空機メーカー減産の影響により、引き続き、低調に推移している。金属工作機械は、国内外の受注が堅調に推移していることから、生産は回復している。半導体集積回路は、足踏みの状況にある。液晶は、下げ止まっている。プラグは、横ばいとなっている。開閉機器、電動機ともに、緩やかに持ち直している。普通鋼は、おおむね横ばいとなっている。特殊鋼は、引き続き、弱い動きとなっている。

- 半導体不足等の影響により減産幅が大きくなった4-6月期と比較すると、緩やかに生産は回復しているが、今後も部品不足等で先行きを見通せない状況が続くと見込んでいる。(輸送機械、大企業)
- 半導体製造装置向けを中心に国内外の受注が高い水準が続いている。生産設備の稼働率を上げて増産したいところであるが、部品不足等の影響によりこれ以上の増産が難しい状況となっている。(生産用機械、大企業)
- 市況の悪化等を背景として、需要が弱くなっている。本来であれば、生産稼働率を上げる時期であるが、例年ほどの稼働とはなっていない。(電子部品・デバイス、大企業)
- 4-6月期は中国ロックダウン等の影響で部材確保が難しく、工場の稼働率が下がっていたが、足下では部材調達状況が改善しており、稼働率が上がっている。産業機械向けを中心に受注が増加しており、さらに稼働率を上げたいが、部材確保の状況次第というところ。(電気機械、大企業)
- 完成車メーカーからの受注は戻ってきているが、受注が減少していた時期の在庫を抱えているため、稼働率を落としての操業が続いている。(鉄鋼、大企業)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

新規求人数が緩やかに増加していることから、有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は低水準である。

- 稼働率の上昇で人手が不足しているため、派遣社員の確保に努めているが、自動車関連でも稼働率が戻っているように人材の取り合いとなっている。(電気機械、大企業)
- コロナ禍で人員調整を実施した宿泊業を中心に、時給を上げて人員確保の動きが見られるなか、時給の水準で劣後し人手が集められないでいる。(小売、中小企業)
- コロナ禍で制限されていたイベント等が再開されてきたことにより、警備業の求人が見られるようになってきた。(労働局)
- 宿泊業・飲食業において、7月8月の夏休みシーズン、9月の連休に向けた人材確保の動きがみられ、新規求人が増加した。(労働局)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、木材・木製品が減少となるものの、輸送用機械や情報通信機器などが増加となることから、増加見込みとなっている。
- 非製造業では、建設や不動産が減少となるものの、運輸などが増加となることから、増加見込みとなっている。

➤ 生産の維持や合理化のための投資に加え、新規事業やカーボンニュートラルの実現に向けた戦略的投資を行っている。(輸送用機械、大企業)

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、窯業・土石や食料品などが減益となるものの、輸送用機械などが増益となることから、増益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設や情報通信などが減益となるものの、運輸が黒字となることやサービスなどが増益となることから、増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 景況判断BSIでみると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き(4年10-12月期)は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、持家の減少傾向が続いているほか、分譲住宅も前年を下回っていることなどから、弱含んでいる。

■ **公共事業** 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、県、国が減少していることなどから、前年を下回っている。

■ **輸出** 「緩やかに増加している」

- 輸出(円ベース)は、緩やかに増加している。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

■ **企業倒産** 「件数は前年を下回っている」

### 3. 各県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
愛知県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
岐阜県	供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている	持ち直している	↗	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡県	持ち直している	緩やかに回復しつつある	↗	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
三重県	供給面での制約等の影響が残るものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、海外需要の動向により一部で調整する動きがあることなどから、全体ではおおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、改善に向けた動きが続いている。

# 近畿財務局

## 1. 総論

### 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	➡

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、足下では感染が落ち着き、外出機会の増加に伴い、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響が緩和され、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
生産活動	持ち直しの動きに一服感がみられる	持ち直している	↗
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	↗
設備投資	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	➡
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	4年度は増益見込みとなっている	➡
住宅建設	前年並みとなっている	前年並みとなっている	➡
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	➡

#### 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外経済の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では足下で感染が落ち着き、国内客が回復するなど持ち直しており、スーパーでは外食機会が増加し、内食需要に落ち着きがみられることなどから、横ばいの状況にある。コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、住宅街などの店舗では売上が堅調に推移しているほか、都市部などの店舗では人出の増加に伴い、持ち直している。ホームセンター販売は、外出機会の増加に伴い、コロナ禍での特需に落ち着きがみられることなどから、横ばいの状況にある。

家電販売は、買替え需要に落ち着きがみられることなどから、横ばいの状況にある。乗用車の新車登録届出台数は、供給面での制約の影響が和らぎ、前年を上回っている。旅行取扱の状況は、海外旅行は引き続き厳しい状況にあるものの、国内旅行は持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 7月後半から感染の拡大に伴い入店客数、売上の伸びが鈍化した。足下では感染の落ち着きに伴い客足も戻り、昨年は中止していた催事も開催されるなど賑わいを見せている。(百貨店・大企業)
- 冷凍食品や総菜など中食の売上は好調であるものの、感染拡大時も行動制限がなかったことなどから外食機会が以前ほど減らず、特需は落ち着き、コロナ前の水準に戻つつある。(スーパー・大企業)
- オフィス街の店舗などは、テレワークの定着などから売上が戻らないところはあるものの、今年は花火大会など開催されたイベントも多く、人出の増加が顕著であり、繁華街や観光地の店舗は好調で業況は改善を続けている。(コンビニエンスストア・大企業)
- 巣ごもり需要で好調だった園芸、DIY用品の売れ行きが悪く、また物価上昇により、全体的に消費者の購買意欲も落ち込んでいることから、売上が減少している。(ホームセンター・中堅企業)
- 買替え需要が一巡したことや、物価上昇の影響から生活必需品ではないマッサージチェアなどの売れ行きが鈍いことなどから、全体として業況は横ばいの印象。(家電量販店・大企業)
- 引き続き部品不足の影響で生産が滞っており、前期より悪化はしていないが、大きく改善もしていない状況。受注残は積み増されており、消費者の購買意欲が落ちている様子はない。(自動車販売店・中小企業)
- 感染拡大による大きな落ち込みもなく、国内の旅行需要は右肩上がり回復している。海外旅行も停止していた各方面のツアーが催行されるなど、徐々にではあるが増えている。(旅行代理店・中堅企業)
- 今期は感染拡大と台風の影響で前期に比べ売上が伸びなかった。コロナ禍で生活様式の変化もあるのか宴会など大人数での利用や遅い時間帯の利用の需要はまだ戻っていない。(飲食サービス・中堅企業)

#### ■ 生産活動 「持ち直している」

生産用機械は半導体製造装置や建設用機械などを中心に好調である。また、世界的な設備投資需要の拡大を受けて汎用・業務用機械も好調に推移している。供給面での制約の影響も緩和され、生産活動は持ち直している。

- 半導体部門は、旺盛な半導体需要によりパワー半導体向けを中心に好調を維持。国内のほか台湾からも受注がある。(生産用機械・中堅企業)
- 北米を中心に住宅建設用の小型建設機械や小型トラクターが好調。(生産用機械・大企業)
- 経済活動の正常化に伴う設備投資意欲の高まりにより受注が回復傾向にある。(汎用機械・中小企業)
- 上海のロックダウンに起因する部材供給困難は落ち着いてきたことから、自動車メーカーの挽回生産の動きもあって、現在は生産ライン全てを稼働させている状況。(輸送機械・大企業)

#### ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

新規求人数が増加傾向にあるなど、有効求人倍率は緩やかに上昇しており、完全失業率も前年を下回って推移していることから、雇用情勢は持ち直しつつある。

- 工場の人手は不足傾向にある。生産量の増加、競合メーカーの採用増などが理由であるほか、当社工場の近くにある知名度の高い大手企業と競合することも要因。(繊維・大企業)
- 適正人数であるが、平均年齢が高齢化しており、会社を10年20年と継続していくには、若い人材の雇用を増やさなくてはならない。(建設・中堅企業)
- 繁華街では時給を上げても人の確保が難しく、一部の店舗は24時間営業の見直しを視野に入れる状況。(コンビニエンスストア・大企業)
- コロナ禍において、「飲食業は休業するので、不安定」という悪いイメージが定着しており、一時期よりは改善したものの人が集まらない状況は継続している。(飲食サービス・中堅企業)

- **設備投資「4年度は前年度を上回る見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和4年7～9月期
  - 製造業では、生産用機械、鉄鋼など、ほぼ全ての業種で前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
  - 非製造業では、不動産などが前年度を下回っているものの、建設、運輸・郵便などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

➢ 研究開発拠点の拡充、生産・物流体制の強化、基幹システム関係の投資などを計画。（生産用機械・大企業）  
 ➢ 物流施設への投資額が増加。（建設・大企業）

- **企業収益「4年度は増益見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和4年7～9月期
  - 製造業では、情報通信機械などが増益となるものの、化学、生産用機械などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
  - 非製造業では、建設などが減益となるものの、運輸・郵便、卸売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

- **住宅建設「前年並みとなっている」**
  - 新設住宅着工戸数でみると、分譲マンションが増加しているものの、持家などが減少していることから、前年並みとなっている。

➢ マンションについては引き続き好調。住宅全体でみても、足下の物価高などによる懸念があり弱含みであるものの、一定の需要がある。（建設・大企業）

- **輸出「前年を上回っている」**
  - 管内通関実績（円ベース）でみると、輸出は、アメリカ向けの鉄鋼や無機化合物などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和4年7～9月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、4年10～12月期は、全産業では「上昇」超の見通しとなっている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等で増加していることから、前年を上回っている。
- **金融** 貸出金残高は、前年を上回っている。
- **消費者物価** 大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）でみると、交通・通信が下落しているものの、食料などが上昇していることから、前年を上回っている。
- **企業倒産** 倒産件数は、前年並みとなっている。

3. 各府県の総括判断

	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
滋賀県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
京都府	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
兵庫県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
奈良県	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
和歌山県	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。

# 中国財務局

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている	供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	↗
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
企業の景況感	「下降」超幅は縮小	「下降」超幅は縮小	→
住宅建設	前年を上回る	前年を上回る	→
輸出	前年を上回る	前年を上回る	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

業態別にみると、家電販売は、テレビなどが低調であり、前年を下回っている。ホームセンター販売は、インテリア用品などが低調であり、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は飲食料品が好調となっており前年を上回っている。ドラッグストア販売は、新型コロナウイルス感染症の抗原検査キットなどが好調となっており前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、普通乗用車、軽乗用車が好調であり、前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では、緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 猛暑の影響でエアコンが大幅に伸長。オリンピック需要の反動減としてテレビが低調となっている。（家電量販店）
- 外出制限緩和による巣ごもり需要の減退や、物価高による節約志向の高まりにより、インテリア用品やDIY関連用品が低調となっている。（ホームセンター）
- 夏休み期間は県外からの来客が多くみられるなど客数が前年に比べて増加し、行楽需要により、おにぎり、調理パン、ファストフードが順調に推移。（コンビニエンスストア）
- 新店出店効果やリニューアルによる品ぞろえの充実により来客者数が増加している。また、新型コロナウイルス感染症第7波の影響を受け、解熱鎮痛剤、抗原検査キットなどの売上が伸長している。（ドラッグストア）
- お盆の帰省需要で広島県産の土産物が好調だったほか、速乾・冷感等の機能のついた機能性の高い衣料や、ラグジュアリーブランドも引き続き好調となっている。（百貨店）
- 行動制限がなかったことに加え、新型コロナウイルス感染症による外出への抵抗感が減少していることもあり、お出かけ関連商品の外出着、スニーカー、トラベルキャリーケース等が好調となっている。足下では10月1日からの値上げを前に酒類や生活用品の駆け込み需要もみられた。（スーパー）
- 半導体不足によるメーカーの生産調整が長引いており引き続き納期に遅れがみられるものの、受注は堅調に推移している。（自動車販売）

### ■ 生産活動 「供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている」

輸送機械は、半導体不足の影響が続いているものの、上海市のロックダウン解除以降、生産が回復していることから、増加している。一方、化学は、海外のインフラ向けなどで需要に弱い動きがみられることから、減少している。電気機械は、スマートフォン向けなどで需要に弱い動きがみられることから、減少している。鉄鋼、汎用・生産用・業務用機械は、自動車向けなどで需要回復の遅れがみられることから、減少している。このように、生産活動は、全体では、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 半導体不足の影響が依然として続いていることから、フル生産とはなっていないものの、上海市のロックダウン解除以降、生産が回復している。（自動車）
- 引き続き高操業を維持しているものの、中国の市況悪化により、中国のインフラ向けで需要に弱い動きがみられることから、生産量は減少している。（化学）
- 高い生産水準を維持しているものの、中国のスマートフォン向けなどで需要に弱い動きがみられることから生産量が減少している。（電気機械）
- 半導体不足等により、国内自動車メーカーからの受注が完全に戻っていないため、生産量は減少している。（鉄鋼）
- 家庭用品向けの需要は堅調なもの、自動車向けの需要が完全に回復していないことから、生産量は戻っていない。（生産用機械）

### ■ 雇用情勢 「持ち直している」

雇用情勢は、製造業、非製造業ともに新規求人数が増加していることや、有効求人倍率が上昇していることなどから、持ち直している。

- 自動車メーカーの生産増加に伴い受注が回復しており、人手不足。（自動車）
- 外国人技能実習生が入国できておらず、作業員が不足しており、人手が足りていない。（電気機械）
- 新規出店の影響により、人手不足。（小売）

■ **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「石油・石炭」などで減少するものの、「化学」、「情報通信機械」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」などで減少するものの、「小売」、「電気・ガス・水道業」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 前年からの持ち越し案件や脱炭素化に向けた設備投資を実施。(化学)
- プロセスセンター等の物流拠点の整備を実施。(小売)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「生産用機械」、「金属製品」などで増益となるものの、「化学」、「木材・木製品」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、「小売」、「情報通信」などで減益となるものの、「医療・教育」、「運輸・郵便」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超幅は縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回る」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、給与住宅が減少しているものの、貸家、分譲住宅が増加していることから、前年を上回っている。

■ **輸出** 「前年を上回る」

- 輸出(円ベース)は、自動車、石油製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東欧・ロシア等などで減少しているものの、アジア、北米などで増加している。  
なお、輸入(円ベース)は、石炭、原油及び粗油などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東、大洋州などで増加している。

### 3. 各県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
鳥取県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費、生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
島根県	感染症や供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。	持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直している。
岡山県	持ち直している	持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
山口県	持ち直している	持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

# 四国財務局

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、持ち直しつつある」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、家電大型専門店、ホームセンターが弱含んでいるものの、スーパーに底堅さがみられ、コンビニエンスストア、観光等が緩やかに持ち直していることから、全体としては持ち直しつつある。生産活動は、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直している中、食料品で持ち直しに向けたテンポが緩やかになっているほか、パルプ・紙で持ち直しに向けた動きに一服感がみられることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	→
雇用情勢	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↗
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「持ち直しつつある」

スーパーは、衣料品や身の回り品が堅調であるほか、飲食料品が底堅いことから、全体としては底堅いものとなっている。コンビニエンスストアは、ソフトドリンクや米飯類等に動きがみられることから、全体としては緩やかに持ち直している。ドラッグストアは、日焼け止め等の季節商品や医薬品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、省エネ性能の高い冷蔵庫等に動きがみられるものの、テレビやDVDレコーダー等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、園芸用品やレジャー用品に動きがみられるものの、日用品等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。百貨店は、衣料品や身の回り品、化粧品等に動きがみられることから、全体としては持ち直しつつある。乗用車の新車登録・届出台数は、小型車は前年を下回っているものの、普通車及び軽乗用車は前年を上回っており、全体としても前年を上回っている。観光は、個人客が増加しているほか、団体客にも動きがみられることから、全体としては緩やかに持ち直している。海外旅行は低調となっているものの、国内旅行は各種支援策の効果などから緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加によって、衣料品やトラベル用品の動きがよくなっている。(スーパー)
- 飲食料品は、生鮮食品を中心に価格上昇の影響による買い控えがみられるものの、引き続き総菜や冷凍食品の動きはよい。(スーパー)
- 来店客数が回復しているほか、外出機会の増加によりペットボトル飲料やおにぎり等の動きがよくなっている。(コンビニエンスストア)
- 天候がよく気温の高い日が多かったことから、冷たい麺類やアイスクリームの売上が好調だった。(コンビニエンスストア)
- 外出機会が増加したことから、日焼け止めや制汗剤が好調に推移している。(ドラッグストア)
- 咳止め薬や解熱鎮痛剤、抗原検査キット等の動きがよかった。(ドラッグストア)
- エネルギー価格の高騰により、省エネ性能の高い高付加価値商品の需要が高まっている。(家電大型専門店)
- オリンピック需要の反動や、インターネットで各種コンテンツを視聴する顧客層の拡大によって、テレビやDVDレコーダーの動きが鈍くなっている。(家電大型専門店)
- 天候がよく園芸用の散水用品が動いたほか、バーベキュー用品等の動きがよかった。(ホームセンター)
- ホームセンター以外でも取扱いのある日用品は、一般的に動きが鈍くなっている。(ホームセンター)
- 来店客数が回復しているほか、外出機会の増加により、衣料品やバッグ等の身の回り品、化粧品等が好調に推移した。(百貨店)
- 半導体不足や部品調達難の影響の緩和により生産に回復の兆しがみられ、長期の納車待ちが少しずつ解消されつつある。(乗用車)
- 行動制限がないこともあって個人客が増加しているほか、バスツアーでの利用客も少しずつ増加している。(観光)
- 第7波の感染拡大時には回復のペースが鈍化したが、以前の自粛ムードのような影響はない。県民割も利用されており、予約状況は好調である。(旅行)

### ■ 生産活動 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

汎用・生産用機械は、供給面での制約が緩和されたことから、緩やかに持ち直している。食料品は、販売価格上昇の影響がみられることから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。パルプ・紙は、原材料等の価格上昇の影響により、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。こうしたことから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 上海ロックダウンによる部品供給不足の影響が緩和したため、生産量は増えている。(汎用・生産用機械)
- 販売価格改定の影響から低価格帯商品などへの消費移行がみられ、需要が減少している。(食料品)
- 原材料等の価格が上昇しており、生産しても赤字になるため、生産量を落としている。(パルプ・紙)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は上昇している。新規求人数は前年を上回っている。

- イベントの開催を受けて、労働者派遣業などのサービス業で求人数が増加している。(労働局)
- スーパーマーケットなどの飲食料品を扱う小売業で求人数が増加している。(労働局)
- 雇用調整助成金の申請件数は減少傾向にある。(労働局)
- 客室の予約状況は好調で、主に接客部門で人手が不足している。(宿泊業)
- 来店客数が回復しつつあり、店舗で働くアルバイト社員が不足している。(飲食サービス業)

- **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
  - 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。
- **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
  - 非製造業で増益見込みとなっているものの、製造業で減益見込みとなっており、全体としても減益見込みとなっている。
- **住宅建設** 「前年を下回っている」
  - 新設住宅着工戸数で見ると、分譲は前年を上回っているものの、持家及び貸家は前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。
- **公共事業** 「前年度を下回っている」
  - 前払金保証請負金額で見ると、市町村は前年度並みとなっているものの、国、独立行政法人等及び県は前年度を下回っており、全体としても前年度を下回っている。

### 3. 各県の総括判断

	前回 (4年7月判断)	今回 (4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
愛媛県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
高知県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

# 九州財務局

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費でも持ち直しの動きが続いていることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械が高水準で推移していることから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
生産活動	持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しつつある	

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、外出機会の増加に伴い衣料品が堅調なほか、催事効果により来店客数が増加したことから、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、弁当や冷凍食品が堅調であり、持ち直している。ドラッグストア販売は、食料品や衛生用品を中心に堅調である。ホームセンター販売は、アウトドア関連商品が堅調であるものの、横ばいとなっている。家電大型専門店販売は、節電効果の高い製品への買い替え需要が続いているものの、横ばいとなっている。乗用車の新車販売は、供給面での制約が続いているものの、持ち直しの動きがみられる。宿泊は、助成事業の効果もあり、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 新規イベントの開催や催事期間の延長の効果もあって来店客数が増加。外出機会が増えたことや気温が下がったこともあり、婦人服を中心に秋物衣料も好調。(百貨店・スーパー)
- 値上げの影響により、割安感のあるプライベートブランド商品の売上が大幅に伸びている。(百貨店・スーパー)
- コロナ禍の巣ごもり需要を契機として、弁当や冷凍食品などの中食関連は引き続き堅調。(コンビニエンスストア)
- 9月は全体として好調であったが、台風に伴う臨時休業の影響により売上が当初見込みを下回った。(大型商業施設)
- 節電効果の高い製品への買い替え需要は引き続き堅調であるものの、物価上昇の影響による買い控えの動きがみられる。(家電大型専門店)
- 感染症の拡大によるサプライチェーンの混乱が落ち着いてきたことで、積み上がっている新車の受注残が例年の水準に戻りつつある。(自動車業界団体)
- 全国旅行支援の開始以降、宿泊の予約が増えており、10月の稼働率は9割近くに達する見込み。外国人客の利用も増えつつある。(宿泊施設)
- 9月半ば過ぎから繁華街の人出は回復しており、10月に入ってからはいまだかつて足が遠のいていた年配客もみられるようになったが、宴会需要はまだ戻っておらず、少人数での利用が多い。(飲食業界団体)

#### ■ 生産活動 「持ち直している」

食料品等は、横ばいの状況にある。電子部品・デバイスは、一部に弱い動きがみられるものの、高水準で推移している。化学・石油製品は、自動車向け製品が回復傾向にあり、堅調である。汎用・生産用・業務用機械は、供給制約の影響がみられるものの、半導体製造装置を中心に高水準で推移している。輸送機械は、供給制約の影響が緩和されつつあり、持ち直している。

- 内食向けは、家庭内需要の定着から需要は大きく落ち込むことなく堅調に推移している。外食向けは、感染症拡大期にあっても行動制限がなかったため、外食機会が増え注文が増えている。(食料品等)
- 需要は引き続き旺盛であり、生産はフル稼働で取引先から増産を求められている状況。この傾向は今後も続く見込みで、半導体需要の減速感を感じられない。(電子部品・デバイス)
- 欧米の車載品需要が回復傾向にあり、高い生産水準を維持している。(化学・石油製品)
- EV関連や半導体関連の引き合いが強好調である。生産に必要な電子部品や半導体が入手できないことがあり、調達に苦労している。(汎用・生産用・業務用機械)
- 7月以降は中国のロックダウンの影響が解消され、調達が懸念されていた部品の点数も減っている。納入遅れが続く部品もあるが、生産車種の振り替えで対応しており、9月以降はフル稼働が続いている。(輸送機械)

#### ■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は、緩やかに上昇している。新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業を中心に前年を上回って推移している。

- 医療・福祉や建設業など慢性的な人手不足の業種からの求人に加え、感染症の影響を受けていた宿泊業・飲食サービス業の求人回復により、有効求人数は増加している。(公的機関)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7～9月期

- 製造業では「はん用機械器具製造業」などで減少見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では「生活関連サービス業」などで減少見込み、「小売業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 生産能力増強のための新規設備投資。(情報通信機械器具製造業)
- 新規出店するための建物建設や業務効率化に向けたシステム関係の更新。(小売業)

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7～9月期

- 製造業では、「食料品製造業」などで減益見込み、「生産用機械器具製造業」などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「小売業」などで増益見込み、「農林水産業」などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数(4年6～8月)をみると、持家及び貸家は前年を下回っているものの、分譲は前年を上回っている。

【その他の項目】

■ **企業の景況感** 「現状判断は『下降』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7～9月期

- 4年7～9月期の景況判断BSIをみると、全産業では「下降」超となっている。先行き(全産業)をみると、4年10～12月期は「上昇」超の見通しとなっている。

■ **公共事業**

- 公共工事請負金額(4年4～9月累計)をみると、前年度を下回っている。

■ **倒産**

- 企業倒産(4年7～9月期)は、件数は前年を上回り、負債金額は前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費でも持ち直しの動きが続いていることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、汎用・生産用機械や電子部品・デバイスが高水準で推移していることから、回復している。雇用情勢は、持ち直している。
大分県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、外出機会が増え、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光関連などにおいて客数が増加するなど、緩やかに持ち直している。生産活動は、輸送機械において供給制約の影響が和らぐなど、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
宮崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、外出機会の増加に伴い百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足に戻りがみられることから緩やかに持ち直している。生産活動は、その他工業などに弱さがみられるものの、食料品工業などを中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業を含む幅広い業種において緩やかに持ち直している。
鹿児島県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光関連において引き続き回復基調にあることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、食料品工業などに弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。

# 福岡財務支局

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を下回っている。	前年を上回っている。	↗
輸出	前年を上回っている。	前年を上回っている。	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店販売は、緊急事態宣言中であった前年の反動により、前年を大きく上回っている。スーパー販売、コンビニエンスストア販売は、前年を上回って推移している。乗用車販売は、半導体不足等の影響による供給の遅れの反動増から、足下で前年を上回っている。ドラッグストア販売は、感染症の再拡大による医薬品の売上増加などから、前年を上回って推移している。家電大型専門店販売は、オリンピック需要の反動減などにより、前年を下回って推移している。ホームセンター販売は、引き続き堅調に推移している。旅行取扱高は、7月以降、感染症が再拡大したものの、国内旅行を中心に復調している。

(主なヒアリング結果)

- 緊急事態宣言下であった前年の反動で売上は大幅増。秋物衣料への衣替えが少しずつみられる中、ピークを目指した9月の連休が台風のため、一部休業となり逆風となった。(百貨店、大企業)
- 売上は前年比プラスで推移しているが、値上げ分が反映されたものであり、客数や買い上げ点数が増加しているわけではない。(スーパー、中小企業)
- 天候不順や緊急事態宣言下であった昨年の反動増のほか、販売価格の見直しにより、売上も増加している。(コンビニ、大企業)
- 引き続き、半導体不足やコロナ感染による海外工場の封鎖に伴う減産によって出荷に遅れが生じている。納期の遅れは車種によって異なるが、平均して半年程度。当面は納車の遅れが続く見込み。(自動車販売、中小企業)
- コロナウイルス第7波の影響があり、予想よりは下回ったが、前年度から大幅に増加しており、堅調に回復している。(旅行代理店、中堅企業)
- 全国旅行支援開始の報道後より問い合わせが続いており、10月以降の予約者数が増加する見込み。西九州新幹線開業に伴うイベント開催も予定されており、更なる人流の増加が予想される。(宿泊、中小企業)
- コロナウイルス感染拡大による行動制限や天候不順の影響を受けた前年と比べると入場者数は大幅に増加。今後の全国旅行支援についてはプラスの材料として期待している。(娯楽、大企業)
- 原材料価格や電気代・ガス代の高騰をうけて、7月に商品の値上げを実施したが、同月以降も価格が上昇し続けており、コロナウイルスの感染状況ではなく、コスト負担の増加が最大の懸念事項となっている。(飲食、大企業)

### ■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

輸送機械の自動車は、徐々に持ち直しつつある中、足下で弱含んでいる。鉄鋼は、自動車向けを中心に前年を下回っている。電子部品・デバイスは、産業機械向けや家電向けを中心に堅調に推移している。造船は、一定の受注残高及び操業を維持している。このように、生産活動は一進一退の状況にある。

- 9月までは自動車生産台数が回復傾向にあったが、10月は再び部品供給不足が顕在化し、製造ラインの大幅な稼働停止が予定されている。(輸送機械、大企業)
- 自動車メーカー減産により自動車向け製品を中心に生産量は前年を下回って推移している。なお、為替相場やエネルギー価格の上昇によって製造コストが増加しているものの、取引先との値上げ交渉が進展していることから収益性は以前より改善している。(鉄鋼、大企業)
- 産業機械向け、エアコン向けを中心に引き続き堅調。自動車メーカーの部材不足による生産調整は継続中だが、今期は前年比でプラスを維持。(情報通信機械、大企業)

### ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は緩やかに改善しているほか、新規求人数も前年を上回って推移するなど、雇用情勢は持ち直しつつある。

- 旺盛な半導体需要のため工場のフル稼働が続いており、引き続き人手不足。コロナ第7波の際には工場内での感染者数も増加し、不足感が特に顕著に表れた。今後も継続的に派遣社員や中途採用の募集を行う。(非鉄金属、大企業)
- 施設稼働率の回復に伴い人員の募集を行っているが、離職率も高く人手不足の解消には至らない。アルバイトも集まりにくい状況のため、今後は時給をアップして募集をかける予定。(宿泊、中堅企業)
- コロナ第7波があつたなかでも、有効求人倍率及び新規求人数は前年を上回って推移しており、雇用情勢は緩やかに改善している。一方で、感染再拡大の影響を受け、飲食業の新規求人数が前年を下回るなど一部で厳しさがみられる。(公的機関)

■ **設備投資 「4年度は増加見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「情報通信機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

➢ 通信関連や自動車向けなど広範囲で需要拡大が継続しており、シリコンウエハー関連の高精度化・生産能力増強の大型投資を実施するため、増加見込みとなっている。(非鉄金属、中堅企業)

➢ 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、投資の抑制を行い、維持更新が中心であったが、今年度は維持更新に加え、ビル建設などを予定しており、増加見込みとなっている。(運輸、郵便、大企業)

■ **企業収益 「4年度は増益見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「窯業・土石製品」等で減益見込みとなっているものの、「電気機械器具」、「非鉄金属」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を上回っている」**

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家、分譲住宅が減少しているものの、貸家が増加していることから前年を上回っている。

■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出 (円ベース) は、前年を上回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (4年7-9月期) の景況判断BSIで見ると、4年7-9月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、4年10-12月期は、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (4年7月判断)	今回 (4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
佐賀県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、一部に供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
長崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

# 沖縄総合事務局

## 1. 総論

### 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア販売が、外出機会の増加に伴う動きがみられるほか、観光地周辺店舗が好調なことなどから、持ち直しつつある。観光は、旅行需要の高まりから、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある	
観光	感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超に転じている	現状判断は、「上昇」超幅が拡大している	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を下回っている	
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	

#### 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、食料品が堅調に推移しているほか、外出機会の増加により衣料品などに動きがみられることなどから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗で好調なことなどから前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。新車販売台数は、足下では前年の半導体不足の影響により落ち込んだ反動などから、前年を上回っている。中古車販売台数は、前年を下回っている。家電販売額は、前年を上回っているものの、足下では弱さがみられる。このように個人消費は、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 7月以降、感染者急増はありながらも、行動制限のないなかで人流回復が顕著に表れており、外出機会の増加から紳士服や旅行バッグなどの売れ行きが良かった。(百貨店・スーパー)
- 食料品については、7月の感染者急増による需要のほか、中元商戦をうまく取り込めたことや台風特需などもあり、堅調に売れた。(百貨店・スーパー)
- 住宅街周辺は引き続き堅調だったほか、本島北部の観光地周辺店舗では対前年比で2倍近い売上となる店舗があるなど、国内旅行客増加の影響が顕著だった。9月は相次ぐ台風接近があり、客足が鈍った。(コンビニエンスストア)
- 感染症の自宅療養、ワクチン接種の副反応のための総合感冒薬、解熱剤の売れ行きが好調。医療衛生については、マスクは引き続き好調に推移しており、デザイン性やファッション性などを重視する動きへシフトしている。(ドラッグストア)
- 新車は半導体不足による減産で納車遅れがしばらく続くが、先行きについて、不透明感がやや緩和してきた。中古車については、新車供給不足による売り物不足が継続し、中古車市場も相場が上がっている。(自動車販売店)
- 7-9月期は猛暑の影響もあり、エアコンなどの季節商品の売れ行きは良かった。しかしながら、物価高・円安による消費マインドの低下があり、耐久消費財の売れ行きが伸びないという構図は厳しい。(家電量販店)

### ■ 観光 「緩やかに持ち直している」

入域観光客数は、国内客は、感染症急拡大や台風の影響がみられたものの、旅行需要の高まりから増加している。外国客は、国際線が運航再開されたことから、2年5ヶ月ぶりの入域となっている。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように観光は、緩やかに持ち直している。

- 7月以降、県内のコロナ感染者が増加したが、影響はなく、好調。(レンタカー)
- 前期4-6月期と比較すると確実に良くなっているが、コロナ感染者の急拡大により、思うように伸びなかった。8月はお盆の時期のみ好調で、前半・後半は弱かった。9月は、3週連続の台風(11号、12号、14号)による欠航の影響が大きかった。全国旅行支援開始待ちの買い控えもあったように思われる。(他運輸)
- 7-9月期の夏場は、修学旅行等の団体客がなく、個人客中心で稼働が落ちる時期であるが、今年はコロナの制限緩和により、8月以降、イベントが実施されるようになっており、貸切バスの需要が増えつつある。団体旅行の問合せも増えつつある。(陸運)
- 7月以降コロナ感染者は増加していたが、7月、8月の稼働率は9割弱と好調であった。9月は台風があったにもかかわらず、台風以外の日の稼働は約95%であった(9月の稼働率は約8割)。受け入れ側も旅行者もコロナの感染対策はしっかり行っており、需要は確実にコロナ前の水準まで回復しつつある。(宿泊)
- 7月以降、コロナ感染者の拡大の影響によりキャンセルが多く発生し、稼働は思うように上がらなかった。県内にはファミリー層を中心に観光客は来ていたようだが、シングル利用が中心の当ホテルへの利用はほとんどなく、コロナ感染拡大による出張の取りやめにより、ビジネス客も少なかった。(宿泊)
- 9月は台風11・12号の影響でキャンセルが多かったが、日程を変更してでも沖縄を観光したいという顧客に対し、9月後半の連休、または、10月の連休に振替を行うことで、台風の影響を最小限に留めた。10-12月期の予約は好調であり、第7波の収まりによる沖縄県のコロナ対処方針の緩和及び全国旅行支援の実施のため、更なる観光需要の増加が期待される。(旅行)
- インバウンドについては、10月下旬から台湾路線が戻ってくるため、需要回復が期待できる。(旅行)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、その他サービス業、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数（新規求職申込件数）は、前年を下回っている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 8月の有効求人倍率（季節調整値）は1.04倍で、30ヶ月連続で全国最下位である（前月から0.03ポイント上昇）。新規求人倍率（季節調整値）は1.94倍で、前月から0.15ポイント上昇となっている。新規求人数（季節調整値）は、前月比6.6%増（724人増）となっており、行動制限がない中、夏場の観光需要の増加を背景に、特に宿泊・飲食サービス業を中心に増加している。また、土産品やコンビニの売上げが好調で、製造業の食料品製造業でも増加している。（公的機関）
- 例年であれば、夏場は求人が落ち着く時期であるが、今年の7月は観光需要の高まりからか、北部のリゾートホテルの求人や「レストラン」「イベント」などwithコロナと連動したサービス関連の求人の増加がみられた。（求人誌出版）
- 雇用調整助成金は、夏休みは好調であったため、利用額は減っている。（娯楽）
- 沖縄県全体として時給が高まっている感があり、時間給社員の確保に苦慮している。（小売）
- 10月以降は修学旅行がコロナ前の9割ほど戻る見込みであり、運転手とガイドの両方が不足見込み。（陸運）

■ 設備投資 「4年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、前年度を30.0%下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、不動産・物品賃貸などで減少するものの、電気・ガス・水道、金融・保険などで増加することから、全体では前年度を31.2%上回る見込みとなっている。

- 今年度は工場設備の新設などを予定しているものの、減少見込みである。（食料品）
- 今年度は店舗の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ 企業収益 「4年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、4.5%の減益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売などで減益となるものの、運輸・郵便で黒字転化となることなどから、全体では49.3%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「現状判断は、「上昇」超幅が拡大している」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超幅が拡大している。先行きは「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家、分譲で前年を上回っているものの、貸家で前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（4年度9月累計）は、前年を下回っている。

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

- 金属製品及び化学・石油製品で上昇しているものの、食料品及び窯業・土石が低下していることなどから、生産活動は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

財務省大臣官房総合政策課

東京都千代田区霞が関3丁目1番1号

Tel. 03-3581-4111 (内線) 2252, 2225

財務省ホームページアドレス <https://www.mof.go.jp/>